

「つなぐ」をキーワードにみんなで創り上げる III ～協働そして共創へ～

佐渡支部長 新発田 靖

1、新しい時代の教育を創るときわ会

吉田隆会長は「3年後に150周年を迎えるときわ会は、会員一人一人の実践の創造性をさらに高め、新しい時代にふさわしい教育、学校、そしてときわ会の在り方を求めていくことが必要である。」とし、1の見出しを基本方針として掲げた。

そして、今年度の重点を次のように定めた。

<重点1> 授業改革をはじめとする実践的指導力を高め、新しい時代の教育を創り出す研修の充実
<重点2> 一人一人の会員や組織への支援を進めることによる計画的な人材育成
<重点3> ネットワークの拡充と情報発信
<重点4> 150周年の先を見据えた、ときわ会の取組と研修・組織の在り方の探求

また、この度の新型コロナウイルス感染防止のために、「8月末まで10人以上の集会を行わない。」とした。

佐渡支部も四月の総会を書面会議にするなどの対応をしているところであるが、今年度の活動を停滞させることのないよう、新しい研修の在り方等、みんなで知恵を出し合い、会員一人一人にとって充実した1年にしたい。

2、協働そして共創へ

この2年間、支部の課題を踏まえて、次のことを推進してきた。

- バランスと意味づけを大事にして「量から質への転換」を図る。
- 様々な人材の活用を図る。
- 高機能で効率的な運用を行う。(ダウンサイジングする。)
- ネットワークを拡充する。

不十分なところもあるが、会員一人一人が主体者意識をもってみんなで創り上げようとする意識は高まってきたように思う。この歩みを更に進めていきたい。

「PISA」の創設者アンドレアス・シュライヒャー氏は著書「教育のワールドクラス」で、シンガポールが成績上位となった分析において「教員の考え方を変えることが教育改革の最も重要なポイントであった。」と記している。また、「学習する組織」「学習する学校」で有名なピーター・M・センゲ氏は、「これからは、組織の一人一人が考え、判断することが大切。」と述べている。昨年度、ラグビー世界大会ベスト8に輝いた日本代表のチームにもこの考えが活かされていた。

これからの時代、私たち会員一人一人が意識改革を図り、自分で考え、判断することがより求められる。その際、「会員それぞれができることを生かし、目標を共有し、ともに力を合わせて活動する(協働)」、さらには「異なる立場や業種の人・団体が協力して、新たな価値観などを創り出していく(共創)」といった視点が大事となる。

「新しい時代の教育」「持続可能で魅力ある佐渡支部」をみんなで創り上げたいものである。